

端 唄 本條秀太郎 本條秀英二

長 唄 芳村伊十治郎連中

囃 子 福原百之助連中

日本舞踊 花柳寿美藏

庵 唄 城端庵唄保存会

司 会 下澤弥生

城端・庵唄のふるさと

江戸芸能の風景

3

加賀絹あまた取りそろえ

城端が誇るユネスコ無形文化遺産・城端神明宮祭の曳山行事。

そこで唄われる「庵唄」は江戸端唄がルーツと言われています。

一昨年の端唄人形芝居「紺屋高尾」、

昨年の端唄芝居「松廼家おけい」の大好評を受けて、

若手演奏家の皆さんによる長唄の名曲「勧進帳」、

そしてお馴染みとなった本條秀太郎さんの江戸端唄他の演奏を通して、

城端に息づく江戸芸能の香りを心ゆく迄お楽しみください。

城端庵唄
江戸端唄

2020年

3月14日(土) 14時開演

南砺市城端伝統芸能会館 じょうはな座

富山県南砺市城端 1046

JR城端駅から徒歩15分 東海北陸自動車道福光ICから車で5分

お問合せ 0763-62-5050 (じょうはな座)

主催：一般社団法人じょうはな伝統芸能・文化を護る会

後援：北日本新聞社／となみ衛星通信テレビ

制作：古典空間

芸術文化振興基金助成事業

長唄 勧進帳

松竹株式会社

チケット 全席指定 前売3,500円 当日4,000円

※小学生のご鑑賞には保護者(成人)のご同伴をお願いします。※乳幼児等未就学の方のご同伴・ご入場はご遠慮ください。
※演奏中のご入場はご遠慮いただいております。

プレイガイド

先行発売 Jointo 会員特典 10%OFF
11月9日(土) じょうはな座

一般発売 11月16日(土)

じょうはな座／福野文化創造センター／井波総合文化センター／福光福祉会館／砺波市文化会館
アーツナビ www.art-navi.com／富山県民会館／富山県教育文化会館／新川文化ホール／高岡文化ホール

城端・庵唄のふるさと

江戸芸能の風景3

「加賀絹あまた取りそろえ」

その昔、城端の絹織物商人たちが出逢った江戸文化。芝居、文学、絵画、そして音楽：爛熟期を迎えていた町人文化は、城端の人々にも大きな影響をもたらしました。

城端曳山祭……その庵唄の中には江戸端唄の影響が色濃く残されています。

三年目を迎える『江戸芸能の風景』の集大成公演。

「加賀絹あまた取りそろえ」と題し、歌舞伎を代表する演目の一つ『勧進帳』……実は城端とも浅からぬ縁がある長唄の名曲、理屈抜きに楽しい日本舞踊『越後獅子』そして、一昨年大好評を博した「庵唄と江戸端唄の聴き比べ」の再演など、数々の江戸の伝統文化を通して、城端と江戸との切っても切れない関係を体感していただけるはずです！

第一部

城端・絹のものがたり

下澤弥生

長唄『勧進帳』を聴く

長唄 芳村伊十治郎連中

囃子 福原百之助連中

日本舞踊『越後獅子』を観る

立方 花柳寿美藏

長唄 芳村伊十治郎連中

囃子 福原百之助連中

第二部

聴き比べ「再び」…江戸端唄と城端庵唄

端唄 本條秀太郎 本條秀英二

庵唄 城端庵唄保存会

「新・城端の端唄」をうたう

本條秀太郎 本條秀英二

第一部

城端・絹のものがたり

城端の絹織物の歴史……その歴史が産み出した数々の文化……、特に江戸の伝統芸能との関係をスライドとお話してつづるプロローグです。

長唄『勧進帳』

代々の名優が演じ続け、数々の名人が唄い、弾き続けてきた『勧進帳』。元源頼朝に追われた源義経一行。加賀国・安宅関で弁慶の機転と勇気によって通過する際の主従の絆が涙を誘います。弁慶の意気を感じた関所の番人・富樫左衛門の計らいで贈られる布施物の中に「加賀絹」が存在するのです。

へ士卒が運ぶ広台に 白綾袴一重ね

加賀絹あまた取りそろえ 御前へこそは直しけれ

【長唄とは】歌舞伎の効果音楽・伴奏音楽として成立しました。現在ではお芝居とは別に多くの邦楽演奏会でも演奏されています。細棹三味線を用い、囃子（小鼓、大鼓、箆、太鼓など）を伴って、例えば「三挺三枚（三味線方3名・唄方3名）」などと言い基本的に複数で演奏します。

日本舞踊『越後獅子』

江戸時代に越後の国から出て来た角兵衛獅子が、踊りや軽業を見せて人気を博した大道芸を舞踊化したもの。今回は若手日本舞踊家・花柳寿美藏が素踊りで「さらしの合方」を抜粋にて披露。何と言っても、友禅染などの工程の一つ「川に布をさらす」作業を模した踊りが見どころです。

第一部

聴き比べ「再び」…江戸端唄と城端庵唄

江戸の端唄から城端の庵唄へ。一昨年大好評を博した庵唄との聴き比べを軸に、江戸端唄の第一人者・本條秀太郎の情緒あふれる演奏と興味深いお話しと共にとお話します。

本條秀太郎…「新・城端の端唄」をうたう

今回のテーマにもつながる、加賀絹の強くしなやかな、たおやかさと輝き、その絹のような感性を持つ城端の人々からインスパイアされた新しい民謡、そして世代性別を超えた多くの皆さまに唄い継がれるような『庵唄』の披露が予定されています。

【端唄とは】江戸の人々の粋と洒脱さより生まれた流行歌で、三味線の演奏と共に座敷などの室内で盛んに唄われました。武士から町民まで、庶民の生活に根ざした身近で洗練された歌詞や旋律が特徴で、江戸後期には三都（江戸・大坂・京都）を中心に大流行しました。



本條秀太郎
ほんじょうひでたろう

茨城県生まれ。三味線演奏家、作曲家。桐朋学園芸術短期大学講師。1971年に本條流を創流し古典、民族音楽を土台とし現代に伝統音楽として生まれた楽派「俣奏楽」を発表。端唄・民謡・民俗芸能の発掘、探訪、CDの発表等国内外で音楽活動を続けている。2004年第五十四回文化庁芸術選奨文部科学大臣賞を受賞、2007年紫綬褒章を受賞。



芳村伊十治郎
よしむらいそじろう

長唄三味線方。1976年、東京都生まれ。芳村伊十七（大和久満）に師事。1999年、分家11代目芳村伊四郎より、芳村伊十治郎の名を許される。以後、国立劇場、歌舞伎座などにおける演奏会・舞踊会・歌舞伎公演を中心に活躍。2018年国立劇場主催「明日を担う新進の邦楽・舞踊鑑賞会」に抜擢される。長唄協会「長唄と教育をデザインする委員会」、芸団協「キッズ伝統芸能体験プロジェクト」主任講師を務めるなど普及活動にも尽力している。



福原百之助
ふくはらひやくのすけ

幼少の頃より祖父である福原流囃子方、六代目福原百之助（後の人間国宝四世寶山左衛門）に囃子を師事。父は、中節十二世・都一中。平成18年七代目福原百之助を襲名。邦楽演奏会・日本舞踊会での演奏活動の他にもワークショップやレクチャークンサートなどの企画や公演を行い、積極的に邦楽の普及に努めている。海外公演にも多数参加。邦楽囃子「若獅子会」同人。東京藝術大学非常勤講師。



花柳寿美藏
はなやきすみぞう

幼少より母・花柳維寿美より日本舞踊の手ほどきを受ける。亡父・花柳寿美藏の名を許され、これを期に三世宗家花柳壽輔に師事し花柳舞踊道場に研鑽を積み、2004年花柳流専門部試験に合格、師範資格を授与。現在は二代目花柳壽應に師事。日本舞踊協会公演、国立劇場主催公演、その他花柳流にとどまらず日本舞踊各流派の公演に出演。各流派合同新春舞踊大会にて最優秀賞を受賞。日本舞踊家集団「弧の会」同人。

大好評に
お応えしての
3回目！

じょうはな庵の勉強会 江戸端唄を学ぶ ③

庵唄の源流を知る…演奏とお話。体験・唄ってみよう江戸端唄

2019年11月28日[木] 18時30分～

城端別院善徳寺 北の書院 富山県南砺市城端405

ゲスト：本條秀太郎 入場無料 定員50名（先着順） お問い合わせ090-2372-6473（山口） 主催：じょうはな庵